※令和3年度以前入学生用

学校番号	1003

令和　5　年度　　地理歴史　　科

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2　単位	年次	3　年次
使用教科書	『現代の日本史』(山川出版社)						
副教材等	プロムナード日本史(浜島書店)						

1　担当者からのメッセージ(学習方法等)

予習として教科書を読んでおくこと。世界史との関連を意識して学習を進めましょう。授業はプリントを用いながらパワーポイントを利用して進めます。重要事項はどんどんメモをしてください。ノートの作成状況は主体的な学習の観点から評価の対象となります。

2　学習の到達目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき考察できること。さらに地理的条件や世界史と関連付けて理解できること。現代の諸問題に着目して歴史的観点から考察し、りかいできること。歴史的な思考力を身につけ、国際社会を主体的に生きる人物としての自覚を持つこと。

3　学習評価(評価基準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする我が国の歴史的展開に対する関心と課題意識をもち、意欲的に追求する姿勢を持つことができる。	近現代史を中心とする我が国の歴史的展開から課題を見いだし、世界史的視野に立って我が国を取り巻く国際的環境などに関連付けて多角的に考察できる	歴史的資料を収集し、有用な情報を選択して用いることで、歴史的意義を追求する方法を身につけ、それらで得た考察を論理的に表現できる。	近現代史を中心とする我が国の歴史的展開についての基本的な事柄を、世界史的視野をもって理解し、我が国を取り巻く国際的環境に関連付けられること。そのための基本的な知識を習得することができる。
評価方法	・授業への取り組み ・リフレクションシート ・ノートの作成状況 ・観察など	・定期テスト ・リフレクションシート ・ワークシート ・観察など	・定期テスト ・課題プリント ・ワークシート ・観察など	・定期テスト ・ワークシート ・小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和3年度以前入学生用

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1	幕末	1. 開国と維新		○			a:自国の歴史に興味関心をもちつつ学習に取り組むとともに諸問題への気づきを持つことが出来る。 b:世界史的な視野を持ち、歴史的事象を追求するとともに国際情勢に関連付けて考察できる。 c:資料を有効に活用して、考察して得た内容を適切に表現することが出来る。 d:基本的事項を習得し、その知識を活用できる。	定期テスト ワークシート 課題プリント小テスト ノート作成 授業への取り組み
	明治	2. 近代国家の形成と発展 3. 産業化の推進と国民生活の変化		○		○	a:近代化の進む明治時代の発展と国民生活の変化の学習に取り組み、価値観の変化と諸問題への気づきを持つことが出来る。 b:世界史と一体となった歴史として理解しつつ、その歴史的事象を俯瞰的に把握出来る。また当時の国際情勢に関連付けて考察できる。 c:資料を有効に活用して、考察して得た内容を適切に表現することが出来る。 d:基本的事項を習得し、その知識を活用できる。	定期テスト ワークシート 課題プリント小テスト ノート作成 授業への取り組み
2	大正・昭和初期	4. 第一次大戦と大正デモクラシー		○			a:戦争に邁進する昭和への過程が大正期にあることに気づき、より学習を深化させることが出来る。 b:世界史的な視野を持ち、歴史的事象を追求するとともに国際情勢に関連付けて考察できる。 c:資料を有効に活用して、考察して得た内容を適切に表現することが出来る。 d:基本的事項を習得し、その知識を活用できる。	定期テスト ワークシート 課題プリント小テスト ノート作成 授業への取り組み
	戦中戦後	5. 第二次世界大戦と日本 6. 占領下の日本	○		○		a:戦前戦中と我が国が歩んだ事実を確認し、学習に取り組むとともに戦後社会に与える影響を考察使用とする態度を持つことが出来る。 b:国際的な広い視野を持ち、我が国の歩んだ歴史的事象を追求するとともに当時の情勢に関連付けて様々な観点から考察できる。 c:資料を有効に活用して、考察して得た内容を適切に表現することが出来る d:基本的事項を習得し、その知識を活用できる。	定期テスト ワークシート 課題プリント小テスト ノート作成 授業への取り組み
3	現代	7. 日本の自立と経済成長 8. 現代の世界と日本	○		○		a:日本の戦後復興から現代に至る道筋を学習し、現代社会の抱える諸問題へ興味関心を持つことが出来る。 b:国際社会の一員として発展してきた戦後史をとおして、国際情勢に関連付けながら諸問題の解決方法を考察できる。 c:資料を有効に活用して、考察して得た内容を適切に表現することが出来る。 d:基本的事項を習得し、その知識を活用できる。	定期テスト ワークシート 課題プリント小テスト ノート作成 授業への取り組み

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画(例)作成上の留意点

・原則として一つの単元(題材)で全ての観点について評価することとなるが、学習内容(小単元)の各項目において特に重点的に評価を行う観点(もしくは重み付けを行う観点)について○をつけている。